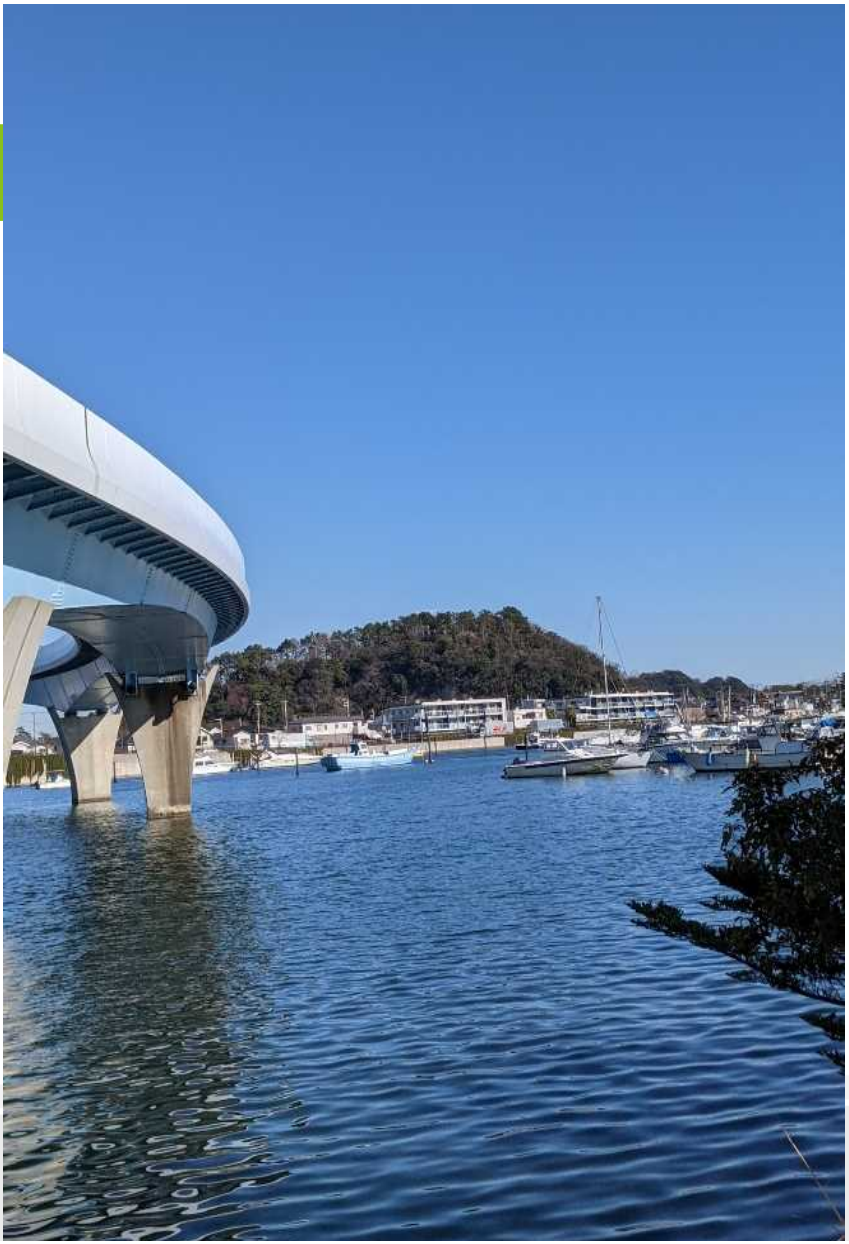
テーマのある学校生活の再出発

関東学院大学　太田俊己



千葉の地から横浜に

…生まれ故郷近くで

○お詫び

会長移行後の混乱。
　今後の不関与を示す上から辞して今に至ります。
　ご迷惑をお掛けしました。お詫び申し上げます。

○小出先生のご指導

この教育実践の「子ども主体」であることの良さの追究、実践・研究水準の向上・発展を願われた。
今日的に追究すべき方向性をここでともに考えたい。

新型コロナウイルス感染拡大下の日常

〇空間と時間をともにできない。関わりが薄く移動の少ない閉鎖的生活。

〇生活感が変わった。「できない」制約下の不自由な暮らし。

➡「学校」の意味・役割とは何か？

➡「障害のある人」の不自由さへの共感

見通しが持てない不安。すべきことが実感できない不確かさ。制限と拘束と不自由と。

不毛の今か？？　～最近味わうことができた期待

◆生活中心の教育は今？　～神奈川は不毛？　でも生活中心的に授業では説いた。

教育実習も困難な本年度。全員がんばった「実習の報告会」等で。

①実習前に不安でテキストを読み返した。「ともに取り組めばよいのだ」と再確認し元気に。

未だかつてない充実の2週間。　＊「知的障害教育Q&A」

②音楽の授業で、子どもがつぶやいた。「もっとやりたい」

では生活単元でやろうか、と担任の先生が応じた（長野の学校）。

③「やらされる」活動ではなく「する」取り組みにしたい（実習生日誌から）。

④「身につけさせたい力」を目標にというのは、オカシイですよね。（教師養成塾の参加学生から）

⑤　Q「ところで子ども主体の授業って？」（卒論主題についての嫌な質問）

「（無言続き）・・子どもが夢中になれる授業かなと思います」（卒論のできが心配だった学生の返答）

お二人の先生の実践から触発されて

- テーマのある学校生活の視点から

「作業」「生単」について　～ここ数年の体験　機関誌　＃３５

◆日本特殊教育学会で　「生活中心的」シンポジウムの開催を思い立った。

➡「作業学習」のシンポ　力強い援軍　□中坪・田所・高倉先生

★朝一のシンポ「人は来ないだろう」の読みに反し資料がなくなる（60名）

◆翌年もやってみた。　★会場いっぱいの参加者　□中坪・田所・高瀬・平間・高倉先生

◆次は「作業」「生単」のシンポ　★やはりぎっしりの参加者

★会場を惹きつけた谷先生の実践　□中坪・田所・木内・久野・谷・高倉先生

遊びの単元「ウォーターランドをつくろう」　地域の方々との単元「梨ジャムづくり」

全校のために単元「運動会・看板づくり」　学校のくつろぎの場「かもだガーデンづくり」

その後のこと

★学研 実践障害児教育の「生活単元学習」特集号

★島根 益田養護学校での生活単元学習・研究会

合わせた指導への関心

実践・研究ニーズはある！

➔　研究会等の今後の意義が

これからの実践のために

◆「作業」している、「生活単元」もやっている？　　本当に？

問題意識：テーマのある学校生活の作業・生活単元か？

➡　生活に「テーマ」をおく実践を進める・勧める今後を？

学校には申し訳ないが見聞した実践から考えてみたい。（機関誌35号）

（１）ある公開研究会　作業学習

～生活のテーマが疑問の作業学習

（２）ある授業研究会　生活単元学習

～子ども達にはピンと来ないテーマ・展開の単元生活

①浸る「生活」のない作業学習 日本特殊教育学会　2019年9月

- ある授業研究会。特別支援学校も、その地区の環境保全「湿原を守る会」に関わる。
- 学校から歩ける環境に、広い敷地の「湿原」がある。

- 対象の授業は、湿原保全の名が付いた高等部作業班
- 他の班も湿原の材料利用（紙漉き、チップづくりなど）を行って湿原との関連をうたう。
- 作業学習（対象授業）は、湿原の材料（葦、竹）などで、ものづくり。
- 学校祭単元➡班で作った製品販売および班の湿原活動をPR発表する。

◆湿原は学校近く。　➡　年間を通して、存分に毎日働ける状況がある。
浸って働けるのに、その「生活」のない作業、とは何か？

生活のない作業から「浸る生活」の作業へ

- 例えば、春夏秋冬、湿原にかかわり、湿原を整備し、湿原で働き、楽しむことを、年間通して行うような作業にしたらどうか？
- 次はここの場所の整備を目指し、繰り返し取り組む生活。そこの整備の完了を祝い、皆でお祝い会をする。
- 春の湿原を楽しむ日、夏の昆虫を探す日、秋に葦を刈り、冬は葦で製品を作ってもよい。
- 次の目標を生徒自身が立て、実現を目指して取り組む。次々に生活のテーマが達成されて、生徒たち自身の働く生活が充実していく。
- 自身が目指せるテーマがあり、テーマの実現を目指す生活を重ねる「過程」で働くからこそ働く作業が、生徒の生活の中で意味を持つ。

- 目指す過程＝生活感のない作業は、「働く」意味を無化する、希薄化する、無価値化する。

テーマのある学校生活の作業学習　再出発

◆「働く作業」より、作業に主体的に取り組める「生活のテーマ」設定こそ作業学習の基本要件にすべきでは

◆テーマのある生活の作業学習で、生徒がどう取り組んだか、主体的な姿は？
＋＜教師の覚えたやりがい＞　➡ **この実践の面白さ・やりがいの発信を**

●**どんな作業活動・班にするかに加えて**
どこから手をつければよいか？
どう計画を立てるか。
日課表をどういじるか　　**＊これらもはっきり伝えることが継承につながる**

② 中坪先生と「生活単元」体験

各教科等を合わせた指導重視の学校 ⇔ 生活単元とは校外歩行と調理の地域

◆作業学習で、地域のスーパーからの宅配活動を始めた学校　（地域・高齢者ニーズ）

◆中学部の「学年の生活単元学習実践」研究に中坪先生と関わる。

「開店！　和風喫茶」　何時間の計画かは不明　2週間に3時間？？×4回？

3年：茶道お点前・お琴付き和風喫茶等を分担し準備。　地域の方にも楽しんでもらう

3年生がお点前・お琴。　2年生は教室で和風喫茶開店。　係分担をして活動を作る

「怖い先生」→ みんなで「お疲れ様でした」の「ともに」の関係に変わる

◆生徒には時々始まる「体験」がセイタン？　→　例：「相撲大会」

単元「相撲大会を成功させよう」

中学部６１名　教師２０名　体育館を中学部が使える時に　**地域の方を招待**

初日　開会宣言　学生力士登場　健康相撲体操　取り組み　全３０番　閉会式

係の仕事　放送　パソコン　呼び出し　床山　ほうき　行司　懸賞垂れ
お茶や　決まり手　お手本力士　・・・

●髷のカツラ　まわし（つけ外し型）軍手　マットの上の土俵　けが防止の教師

「お相撲ごっこ」と言われないためには？

「合わせた指導」への義務的努力

◆「教科外の活動」が生活単元学習と考え？　一人ひとりが活動できるようにすることを優先している？

＊生徒たちにどのような「生活」を送ってほしい・・の想いはない？

◆テーマのある学校生活づくりの発想が ！

「単元」中の生徒のよい姿・取り組みを「もっと」「もっと」と受け止めてもらいたいが・・・・。

こうした取り組みも含め～これからの再出発のために

湿原近くの学校の「作業」

➡湿原を生徒たちの年間の生活テーマにする中の「作業学習」に

和風喫茶、相撲大会を続ける「生活単元」

➡中学生らしいテーマ、本物の活動を意識した変革で「生活単元学習」に

◆「それ風」な実践も いっしょに追求する方向性を

＝子ども達が主体的に取り組む生活のテーマ実現をめざす実践を

実践のために

①まずは実践を　②実践を高め合う交流を　③発表･検討とその機会を

（１）テーマのある学校生活のいろいろな試みをしましょう。

（２）「主体的な取り組み」の良さ・成長過程を　　作業・生単で

（３）「テーマ」と単元計画をより良く　　単元のふり返りと検証を

（４）年間の指導計画・日課表の重さの確認、さらに改革も

（５）実践者間での相互検討の機会　　グループ活動と世話役を

（６）伝え方・実践確認の試みも　　他分野：ドキュメンテーション

実践過程の検証を研究的にも

研究・研究会についても？

◆実践・実践者支援の研究を明確に

～この子たちのニーズを満たす支援的研究

①理念を深める　②実践方法探求と敷衍　③交流と高め合いの場を

（１）子ども主体の教育の価値・知的障害教育で実現するいっそうの意義

（２）どの子も夢中になり満足する学校生活への方法 ～教師もともに

（３）他の学会等も含め、地域等で確認し高め合うことのできる機会を

◆着実に、調査し、論証し、公表する、探求への志とシステムをご期待

ありがとうございました。

この場をお借りして御礼を。　この間、ありがとうございました。

教員としては不適格でした。　その分、皆さまのカバーで何とか。

研究も一貫せず、お騒がせもした。自身では正直な歩みと納得している。

◆右手に知的障害教育、左手は幼児期のインクルーシブな保育追究の30年。矛盾するとも言われた。

◆人々の多様性を前提に、だれもが自尊と協調、前向きに生きる人生を送ることのできる教育・保育・社会をめざすことは基本。社会から理解されにくい知的障害の人達の近くにいて、この人たちも生きやすく学びやすい支援条件を追究し具体化し提案し、そのための、この人たちの満足する学校生活を全力で創る役割が知的障害教育。インクルーシブなあり方への権利保障と方法支援を担う、この知的障害教育に、今後は一市民として応援できたらと思います。